



祭典合唱団ニュース

ひろしま

NO. 15
2021年11月28日
発責：実行委員会

あきらめなければ 願いは届く

祭典合唱団に集まって下さった皆様、本日が日本のうたごえ祭典・inひろしま本番前の最後の練習会となります。

2年前の2018年末、
「被爆75年に核兵器廃絶というひかりにむかって日本
のうたごえ祭典を広島で開
催しよう」と意気高く始め
た取り組みが、思いもかけ

ないコロナ感染という世界的なパンデミックに襲われ、
一年延期をせざるを得ない
状況に見舞われました。

コロナ感染はその後も収束することはなく現在も続いています。

しかし、私たちは感染対策を十分に取って、知恵と工夫でひろしま祭典を諦めないという険しい道を選んで

前を向いて進んできました。

祭典合唱団を募集して2021年の5月の西日本合唱講習会をスタートにして練習会を開始した直後にコロナ感染の大きな波が来て

緊急事態宣言となり、レッスンは出来なくなりました。先が見えない不安で苦しいひと月半でした。

開されましたが、8月にはまん延防止宣言が出され、また公共施設の会場が使用できなくなりました。この危機的状況のとき、唯一会場を貸して下さったのが韓国会館でした。

さながら砂漠の中のオアシスのように思えました。ここから、練習会のZOOM配信を始め、音楽センターの事務所に各パートから集まった最少人数の合唱をZOOM配信し練習会を続けるという取り組みもしました。

何度もうだめかと挫折そうになりながらも、委員

長会や各種会議をZOOMでも続け、知恵と工夫と諦めない気持ちを奮い立たせて危機を乗り越えてきました。初心を忘れず貫くことができたのは、皆さんの熱い支えがあったからです。

コロナ禍で生じた不安な気持ちとの葛藤などもあったことと思いますが、それら乗り越えながら合唱に参加して下さってありがとうございます。

私たちの強い思いを受け止め共感して指導して下さいた専門家の先生方、ピアノ伴奏の皆様。そして、練習会のZOOM配信をするため休日ごとに早朝から準備をして下さった山上さんをはじめとするスタッフの皆様、献身に、言葉では言い表せないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

さあ皆さん！いよいよ待ちに待った本番のステージです。

うたごえをヒロシマの空へ響かせましょう！
ヒロシマの川に語りかけましょう！

子どもたちへの愛と未来への希望を歌い上げましょう！

合唱団員 紹介コーナー

私も歌ってます
よろしくお祈りしま〜す！

原田晴香さん (A)



広大の学生だった頃、通学に使っていたJRバスの運転手さんが後にナッパーズの廣中徹さんと知って「うたごえ」とのご縁を感じます。仕事は船舶などの事故の調査をする国家公務員です。

安佐南区が土砂災害に見舞われたところにハミングバードに所属していました。ナッパーズと一緒にステージをしたことがあります。今は寺沢希先生の指導されている広島中央合唱団で活動しています。齊城英樹先生の広島オペラアンサンブルの舞台にも出させてもらっているので、今回の日本のうたごえ祭典にとっても不思議なご縁を感じています。

16年前の2005年のうたごえ祭典では安佐南区の「如月」という太鼓のサークルに所属して「生命の詩」に太鼓で参加して、今回は合唱で参加できてこれも奇遇と感

じています。今回はオーケストラと一緒に歌う歌、青年のステージ、「生命の詩」「広島 愛の川」を歌います。また、私は男声合唱の力強く深い響きが大好きです。参加は叶いませんが応援しています。

大学生の時にピースウェーブコンサートに参加し、その時初めて「アメイジング・グレイス」を歌いました。その後、来たり来なかつたりになっていますが、顔を出すたびこころよく迎えていただき、とても嬉しく感じています。

コロナ禍のトで歌う

決意と喜びを歌声に込めて

「2021日本のうた
ごえ祭典 in ひろしま」
まであと10日。最後から
2回目のレッスンは、11
月23日・14時から20時半
まで南区民文化センター
のスタジオで行われまし
た。

最初は寺沢希先生の
「大地讃頌」で、オーケ
ストラ伴奏で歌う時の注
意点が丁寧に指導されま
した。そのあとは三上和
伸先生の「ひろしまへ」
の最終のレッスンでした。
本番指揮者でまだ登場
していなかった渡辺享則
先生が長野から来られて
「リナッシェロ リナッ
シェライ」のレッスンは
ありました。この曲は今
祭典の開幕を告げる曲で
あり、歌そのものがコロ
ナ禍のイタリアで人々を
励ました曲であることか
ら、私たち一人一人の思
い、そして聴いて下さる
皆さんの共感を得るにふ
さわしい曲となるでしょ
う。「リナッシェロ リ
ナッシェライ」（私は生

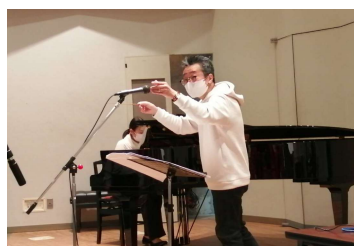


田中香月先生

まれ変わる、あなたも生
まれ変わる）を、開幕を
飾るにふさわしい決意と
喜びを込めて、明るい歌
声で表現してくださいと
渡辺先生。「日々の暮ら
し変える時さ」「立ち止
まって考えよう」の対比
青い空の高さと踏みしめ
る大地の距離感、太陽の
光浴びるその輝きを立体
的にイメージして歌うよ
うに指導されました。
素晴らしい歌詞（緒方一
夫・日本語詞）に感動し
ながらのレッスンでした。
この日の最終は松本憲
治先生の「アメイジング・
グレイス」「We Are The
World」のレッスンでし
た。ソプラノソロの豊田
日乃さんも参加され、清
楚でそれでいて若々しい
エネルギーに満ちた声を
聴かせてくださいました。



ソリスト豊田日乃さん



寺沢希先生



三上和伸先生



渡辺享則先生

「アオギリのうた」作曲者 森光七彩さんによる合唱指導



「あおぎりのうた」練習風景

11月21日(日)午後、広島市立竹屋小学校体育館にて、「アオギリのうた」の練習会が行われ、広島市内の小学校4校の合唱部から約50名が集い、初めての合同練習会を行いました。

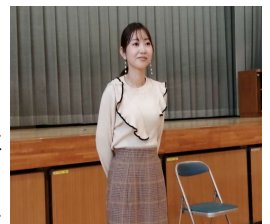
作曲者である森光七彩さんが指導に来てくださいました。

最初に、七彩さんによる「アオギリのうた」の弾き歌い。

作曲されて21年目の今、目の前で演奏する作曲者の姿、伸びやかな歌声、心のこもった表現に、子どもたちの視線は釘付けに。集中して聴き入っていました。

七彩さんより、「アオギリのうた」を作曲したいきさつ、「アオギリのうた」に込めた思い、今の小学生に伝えたいこと。今、こうやって歌えていることが「平和である」こと。

そのようなお話を聞いた後、七彩さんによる指導を受けました。



森光七彩さん

マスクはしているけれど、笑顔で歌うことを心がけること。語頭の子音を立たせて、よりはっきりと言葉を伝えていくこと。

七彩さんからの具体的なアドバイスにより、子どもたちの歌声が、より生き生きとしてきました。

12月4日の本番には、100名を越えるメンバーがステージに立ちます。森光ファミリーバンドと一緒に届ける「アオギリのうた」。

光に向かって未来をひらく、子どもたちの歌声を、どうぞお聞きください。

(記 宇城昌里子)



「アオギリのうた」の練習の後、内田陽一郎先生による「広島 愛の川」のレッスンも行われました。